

混ぜればづみ、分ければ資源

皆さんのご家庭から毎日出されるごみを処理するため、どのくらいの費用がかかっているかご存じですか……六十二年度は一トン当たり一万七千七百円（六十一年度、一万一千四百円）、一世帯で二万一千三百円にもなっています。市では、年々増え続けるごみ量と処理費用を少しでも減らすため「資源ごみ回収運動」や「生ごみ処理器設置事業」などを実施しています。ごみを減量し、きれいな街にするため、皆さんのご協力をお願いします。

くり返し生かさう

限りある資源を

ごみをもう一度有効に活用すれば、ごみの減量につながることはもちろん、貴重な資源の確保にもなり、環境美化にも役立ちます。



ごみ収集日に出されるごみの

中には、新聞紙、雑誌、空ビン、鉄クズ等資源として再利用できるものが数多く含まれています。これらのものを分ける……ごみの資源化は、この分けることから始まります。

資源ごみ回収運動に

参加ください

市では、町内会や子供会などの団体のご協力により、五十六年度から資源ごみ回収運動に取り組んできました。六十二年度は百二十四団体が参加し、市から約九十一万九千円の奨励金が交付されました。回収回数が多かったのは萩野台子供会、清水五丁目子供会、たつみ町子供会などでした。皆さんの地域でもぜひこの運動に参加してください。

◇奨励金 市民団体が市の指定

廃品回収業者に廃品を売却した場合、売却代金とは別に、廃品一キロ当たり二円（空ビンは一・八円及び二円ビン一本で二円です）を市から奨励金として交付します。

◇資源ごみ回収運動指定業者

- ・大館紙業（獅子ヶ森）・大谷商店（泉町）・近江商店（水門町）・小池古物店（沼館）・佐々木商店（清水三丁目）・東北ワルブ（二ツ森）・平山栄一商店（板子石）・丸元商会（片山二丁目）

生ごみ処理器で

ごみを減量

週二回の可然ごみの日、ごみ一時預かり所におかれたごみ袋から汚水が流れ出し、悪臭が漂っている所がかなり見られます。近所のご家庭では、大変迷惑しています。また、水分の多いごみは焼却炉に入れても燃えにくいため、重油を使って燃やしています。

そこで市では、こうしたことを少しでも解消するため、五十九年度から「生ごみ処理器設置事業」を推進しています。

生ごみ処理器は、プラスチックの容器に野菜くずなどを投棄し発酵させるもので、二〜三カ月で良質の肥料になり花壇や畑などに使用できます。

容器の価格は、百五十円のもので六千円前後ですが、市で半額を補助（限度額は三千五百円）しています。すでに千五百五十戸のご家庭で使われており、ごみの減量にお手伝いいただいています。

購入される方は、次の指定販売店でお買い求めください。

◇指定販売店

- ・正札竹村（大町）・旭プラスチック（田代町）・農協各支所及び出張所・ホテヤ薬局（大町）

ごみを出すときは

もう一度確認を

六十二年度中、ごみ焼却場に運ばれてきたごみは一万六千八百トンでした。このうち、焼却しても燃えないで出てくるごみ（金くずや石ころ）が約二・四％、四百トンもあり、その原因で焼却炉が故障し、五百万円もの修繕費がかかりました。

「ごみをくずかごに入れる前にもう一度確認を」家族みんなで話し合ってください。

◆ごみ処理についてのお問い合わせは市環境衛生課へ。

☎42-2169、43-4784

市長の対話ノート



No.172

「はっさい先生」から学ぶ

NHK朝のテレビ小説「はっさい先生」が終わりました。毎回見ることはできませんでしたが、このドラマから私なりに学んだことをまとめてみました。

「おっちょこちよい」な翠先生でしたが、江戸っ子気質で根っからの明朗家庭の中で育ったのですから当然でしょう。

戦時中のどん底の生活の中でも、持って生まれた明るい性格で、回りの人々との絆を深め、その中から生命の尊さを知り、限りなく教育に燃えた執念のドラマであったと思います。

翠先生が言いたかったことは、「幸福は遠くにあるものではない。内なる自分の性格、意志などのように、身の回りに幸福になれる素材はたくさんあり、それを生かすことができるかどうかということだ」ということではないでしょうか。

いつの時代でも、自立性、自主性のない人間は、前進も発展もない、そう学びました。

伊山俊彦